

“オール近大” 川俣町復興支援 プロジェクト

近畿大学大学院総合理工学研究科

島津美宙

もくじ

- ◆川俣町と近畿大学の関係
- ◆昨年度の取り組み
 - ・キノコ採取による環境調査
 - ・川俣高校への出前授業
- ◆今年度の取り組み
 - ・実施済み
 - ・実施予定
- ◆まとめ



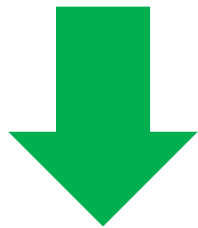
川俣町



近畿大学
KINDAI UNIVERSITY

川俣町と近畿大学の関係

- ◆ 2011年3月11日 東日本大震災が発生
- ◆ 3月15日 福島第一原子力発電所からベント
(放射性物質が大気中へ拡散)
- ◆ 4月22日 川俣町が計画的非難区域に設定される
- ◆ 4月29日 近畿大学原子力研究所が川俣町を訪問
環境放射線調査、放射線に関する相談など
- ◆ 5～6月 原子力分野の専門家としてアドバイス
環境放射線測定と分析、校庭の表土除去



信頼関係の構築

- ◆ 6月22日 川俣町より震災復興アドバイザーを委嘱される



川俣町と近畿大学の関係

- ◆2011年6月～現在まで
町内すべての幼稚園児、小・中学校の生徒へ
放射線量測定用のガラスバッジを 配布し測
定、町へ報告。
- ◆2014年12月
東日本大震災復興支援室
「“オール近大”川俣町復興支援プロジェクト」発足
- ◆2015年5月～現在まで
「除染研究」「心身ケア」「産業振興」の分
野で幅広く支援を継続している。



これまでの活動の位置づけ

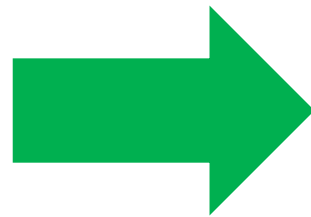
福島イノベーション・コースト構想促進事業の採択前

◆除染・心身ケア

ガラスバッジ配布

健康相談会

除染研究etc



予算の都合により

限られた人数しか参加できない

主に教員が活動

◆産業振興

新たな特産品の創生

ポリエステル媒地を用いたアンスリウムの栽培指導

芸術ワークショップを通じた交流etc

これからの活動の位置づけ

福島イノベーション・コースト構想促進事業の採択後…

学生が主体となって復興に取り組む！

原子力研究人材 の育成

- ・ 山林の放射線環境測定と環境試料採集など
- ・ モニタリングポストと周辺での線量率測定



放射線による健康不安の緩和調査

近大発・川俣ものづくり プロジェクト

近大ものづくり工房

技術/ニーズの発掘

川俣町内企業

川俣高校機械科

産業振興と雇用創出に向けた継続的な取り組みが可能な体制を提言

川俣へ農学「知」 の誘導・集積

- ・ 学部横断型の教員・学生によるフィールドワークの実施
- ・ 地元の業者等との意見交換



農業（畜産含む）や飲食業経営者等へ向けた川俣町の産業や文化の振興提言

昨年度の取り組み

- ◆ため池周辺およびキ/コ採取による環境調査
- ◆川俣高校にて出前授業
- ◆地元企業とのものづくりに関する交流
(人材育成、新規開発etc.)
- ◆農業や食品に関する意見交換
(商品、メニュー開発etc.)



キノコ採取による環境調査

- ◆2018年9月27日～29日 理工学部および農学部の学生がため池周辺調査、キノコ採取
- ◆採取したキノコは放射能濃度を測定し、汚染状況の推移変化を調べた
- ◆町役場の関係者の方から、2011年の被災から数年間の状況についてヒアリング



川俣高校への出前授業

- ◆12月5日 近畿大学の学生による川俣高校への出前授業を実施
- ◆川俣高校の1-3年生までが3つのグループに分かれ、大学生から講義を受ける形式
- ◆さまざまな分野に興味関心をもってもらう
- ◆将来を考えるきっかけに



出前授業の内容その1

ロボット研究会によるものづくり紹介

- ◆部員たちよりロボットの仕組みについて講義
- ◆実際に研究会にて製作されたロボットを紹介
- ◆高校生に操作してもらいながら、ロボットへの知識を深めてもらう

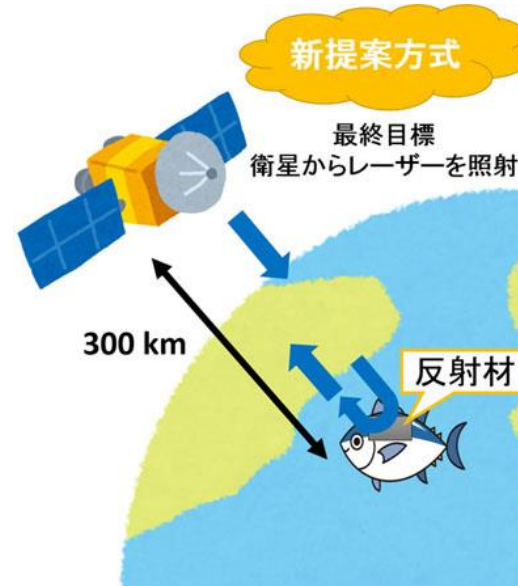
ものづくりへ興味・関心を持ってもらう



出前授業の内容その2

宇宙マグロプロジェクト

- ◆ドローンを使ったマグロ追跡装置の紹介
- ◆活動内容の紹介
(クラウドファンディングetc.)
- ◆高校生にドローンを操縦してもらう



技術者や起業家を目指すきっかけに

出前授業の内容その3

放射線に関するワークショップ

- ◆原子力を専攻している学生から放射線に関する基礎講座を実施
- ◆簡易放射線計測器を用いて身の回りの放射線を測定
- ◆種類の異なる金属板を使った遮蔽実験

正しい放射線の知識の普及



アンスリウム畑の見学

◆ 出前授業後、今までに取り組んできた活動を見学



フィールドワークを通じて…

近大生の思い

- ◆実際に現場を見ることで初めて理解することができた
- ◆現地の人の話を聞くことで、より有効的な案を考えることができた
- ◆人に教えることの難しさを感じた
- ◆学生が主体となって動く良い機会となった

他の活動について

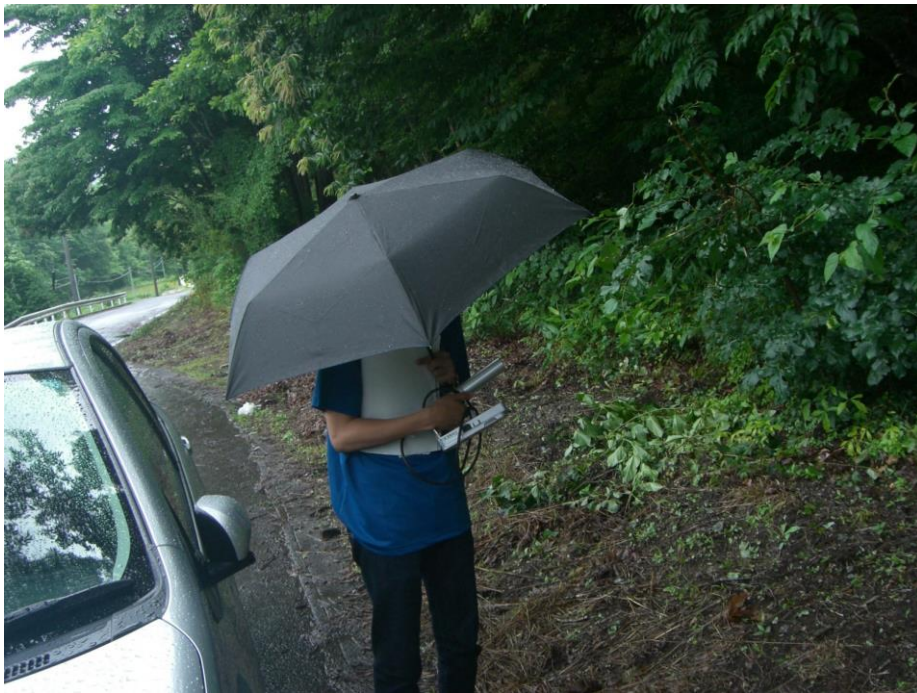
- ◆サツマイモの空中栽培 (2013～現在まで)
- ◆川俣シャモまつり参加
(2013～2017, 2019参加予定)
- ◆化学実験 (2015, 2017, 2018)

など



今年度の取り組み 実施済み

◆キノコ採取による環境調査



今年度の取り組み 実施予定

- ◆山林の土壌汚染状況の推移調査
- ◆コウタケの人工栽培
- ◆川俣シャモを用いた新メニューの開発
- ◆アンスリウムのPR活動

来年度以降も…

帰還支援、地元産業の発展、個人のメンタルケア、
人材育成など多岐にわたる活動を予定

近大内でのPR活動

◆アカデミッククシアター内での展示



よきよき復興のために

- ◆復興支援プロジェクトへの参加学生の増加
- ◆実施内容の大学内での周知活動
- ◆福島の子と近大生の交流
- ◆学生が主体となってアイデアを生むために、必要な支援を明確化する

**未来を創るのは若い力が必要！
福島の子にも近大生にとっても刺激になる活動を！**

まとめ

- ◆川俣町と近大は震災直後から現在まで復興のために様々な活動を行ってきた
- ◆最近では、学生がフィールドワークを行うことも増えている
- ◆しかし、さらに発展するには積極的に若者の交流を増やすべきである
- ◆そして必要な支援の明確化と実施内容の周知を徹底



これからも近大は
福島復興のために
全力で取り組みます

ご清聴ありがとうございました